

2020 年度 実践記録集

与論町教育委員会

1. 与論町における海洋教育について

海洋教育を与論町の特色ある教育活動の核として位置づけ、海を通じた学習により「与論の歴史・文化」「人と海との関わり」を知り、「これからの在り方」考えていくために、また、自ら課題を見つけ、課題に主体的に関わり、協同して課題解決に向かう心と態度を身に付けたを人材を育成していくこと目標として取り組んでいきます。

～誠風 288 号より抜粋：「与論町における海洋教育について」与論町教育長～

与論町海洋教育推進グランドデザイン

令和2年度 与論町海洋教育推進グランドデザイン

「誠」の教育（与論の教育の根幹）

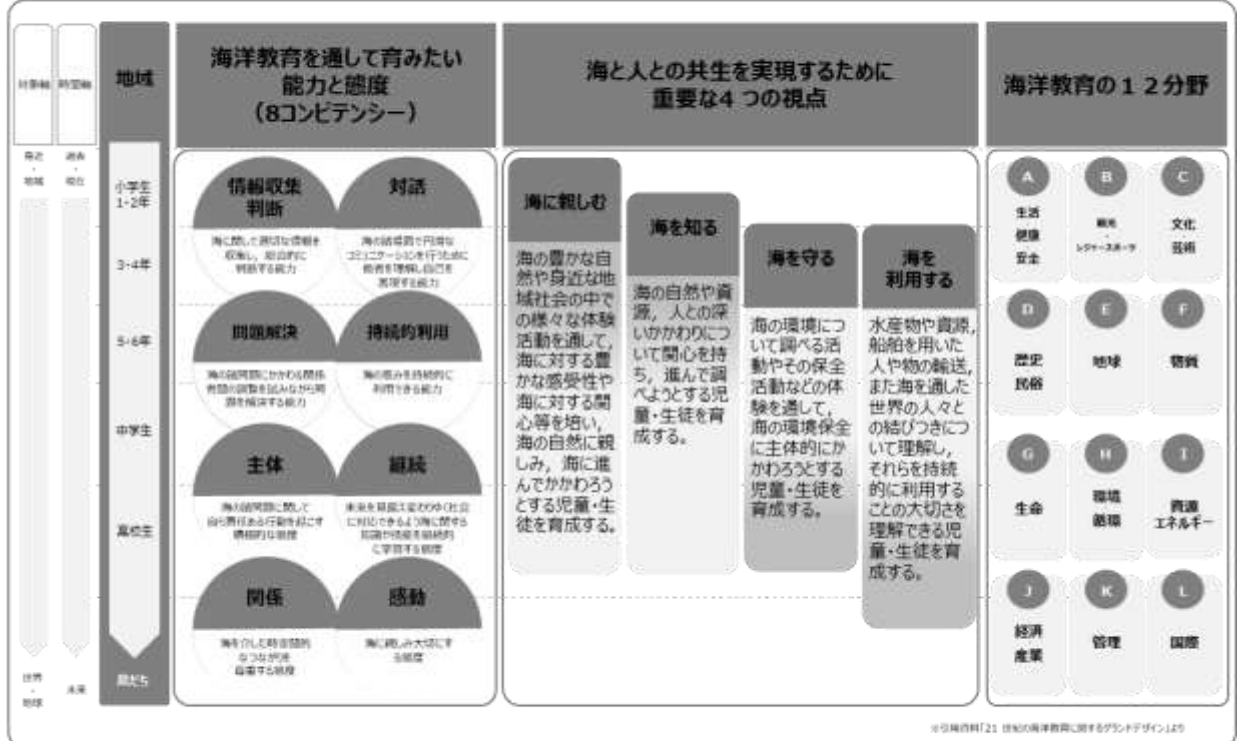
祖先の遺訓である誠を「島に誇りを持ち、誠実で利他の心があり、真理や理想を追求する精神」であると伝え、夢や希望を持ち、粘り強く学び、変化の激しい社会で困難を乗り越えて積極果敢にたくましく生きる人財の育成を目指す教育

学校教育行政・社会教育行政の重点施策との関わり

豊かな心と健やかな体を育む教育	社会の変化に対応できる力を育む教育	信頼される学校づくり	地域全体で子どもを守り育てる環境づくり	生涯にわたって学べる環境づくりとスポーツ・文化の振興
<ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳教育の充実 2. 生徒指導の充実 3. 人権同和教育の充実 4. 体験活動の充実 5. 子ども読書活動の推進 6. 文化活動の推進 7. 食育の推進 8. 体力・運動能力の向上 9. 健康・安全教育の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな学力の定着 2. 特別支援教育の推進 3. キャリア教育・進路指導の推進 4. 郷土・伝統文化教育の推進 5. 海洋教育の充実 6. 幼児教育の充実 7. 社会の変化に対応した教育の推進 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開かれた学校づくりの推進 2. 学校運営の充実 3. 教職員資質の向上 4. 安全・安心な学校づくり 5. 教育環境の整備・充実 6. 特色ある学校づくりの推進 7. 与論高等学校との連携の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域ぐるみでの子どもの育成 2. 家庭及び地域の教育力の向上 3. 家庭教育支援の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯学習の推進 2. 生涯スポーツの推進 3. スポーツアイランド構想の推進 4. 文化芸術活動の推進 5. 文化財の保存・活用

海洋教育を通じた人材育成

海に囲まれた与論島にとって、海との共生は重要な課題である。海洋教育を通して、与論の「歴史・文化」「人と海との関わり」「これからのあり方」を、課題の発見および解決を念頭において主体的・協働的に学習し、地域と世界の未来を創造していく人材の育成を目指す。



各校によるカリキュラム作成

海洋教育を通じた人材育成

海に囲まれた与論島にとって、海との共生は重要な課題である。海洋教育を通して、与論の「歴史・文化」「人と海の関わり」「これからのあり方」を、課題の発見および解決を念頭において主体的・協働的に学習し、地域と世界の未来を創造していく人材の育成を目指す。

対象年齢	地域	目指す姿	アウトプット
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> 専ら 地域 </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> 専ら 県外 </div> </div>	小学生 1-2年	<小学校卒業時まで> ・与論の海の素晴らしさと問題点、環境保全などに関する社会活動の重要性について知り、学んだことや行動した内容を、自分なりの言葉で地域や他校に向けて発信し、交流することができる。	<発表の具体例> ・学習発表会で発表する ・地域の行事で発表する ・地域で配布されるポスターを作る ・WEBサイトで発信する ・新聞で取材される ・メディアで発表する
	3-4年		
	5-6年	<中学校卒業時まで> ・国内外の海や、海洋事情についての知識を深め、与論と比較・分析することで、課題設定を行う。また、課題解決に向け計画・立案・実行し、結果を誰に、どのように伝えたいかを考え発信し、評価を受けることができる。	<評価を受ける具体例> ・関係する団体や会議に、提案する ・海洋教育ごとをコミットに参加する
	中学生		
	高校生	<高校卒業時まで> ・海洋に関する広範な知識をもとに、地域内・外の人と連携しながら、課題解決のための計画・立案・実行する。その過程で、社会評価を受け、改善や再考することを通じ、自己の学びを深めることができる。	<まなびの具体例> ・課題解決につながる、商品や企画・販売イベントを企画し、他の団体と協働しプロジェクトを立ち上げる
	高校生	<高校卒業後> ・海洋に関する知識と、自己の専門性を活用し自身と地域のために行動することができる。	成果報告する

参考資料

「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン
～海洋教育に関するカリキュラムと単元計画～」

海洋教育を通して育みたい能力と態度
(8コンピテンシー)



海洋政策研究財団

8コンピテンシー		
【情報収集・判断】	海に関して適切な情報を収集し、総合的に判断する能力	様々な事象が複雑に関係している海の諸事象や諸問題に関して、複数のリソースから必要な情報を適切に取得し、幅広く俯瞰的な視野で客観的・多面的・総合的に分析し、人・社会・自然等の相互関連性や広がりを理解し、論理的・合理的かつ公平に判断する能力。
【対話】	海の諸現場で円滑なコミュニケーションを行うために他者を理解し自己を表現する能力	様々な主体が会する海の諸現場において、他者の考えを理解・尊重しながら自らの知識や考え方を他者に分かりやすく説明・表現し、積極的に他者とのつながりを拡充することができる能力。
【問題解決】	海の諸問題にかかわる関係者間の調整を試みながら問題を解決する能力	様々な主体が関係する海の諸問題に関して、他者の立場や考え方を理解・尊重しつつ、自らの考えで平和的な対応策を見出し、実行する能力。
【持続的利用】	海の恵みを持続的に利用できる能力	生物資源や鉱物資源、美しい景観や自然体験等の海の恵みを、将来世代の利益を失うことなく、現代社会の発展のために利用できる能力。
【感動】	海に親しみ大切にする態度	自ら積極的に海に接することで、海に親しみ、海の壮大さや海の恩恵を感じ、海を大切に思う態度。
【関係】	海を介した時空間的なつながりを尊重する態度	自分と身近な個人・団体のみならず、海を介した世界とのつながりを理解し、国際的な視点で思考する態度。海の世界や文化を学び、将来世代にわたる海と人類の共生を実現するために、自らの行動と様々な事象を関連付けようとする態度。
【主体】	海の諸問題に関して自ら責任ある行動を起こす積極的な態度	自らの行動と事柄のつながりを理解し、その行動に責任をもち、リーダーシップを発揮し、海の利用、管理、保全にかかわる積極的な行動を起こそうとする態度。そのために様々な物事に好奇心をもって、忍耐強く、継続的に挑戦する態度。
【継続】	未来を見据え変わっていく社会に対応できるように海に関する知識や技能を継続的に学習する態度	自分や他者、社会の未来を想像し、海に関する様々な知識や技能、及び海洋で営まれている様々な経済活動や職業についての情報を自主的かつ継続的に取得しようとする態度と実行力。

※海洋政策研究財団発行「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」より引用

3. 各校での海洋教育の位置付け
茶花小学校

令和3年度 海洋教育全体計画

与論町立茶花小学校

<p><与論町海洋教育推進 グランドデザイン> 祖先の遺訓である鯨を「島に誇りを持ち、誠実で利他の心があり、真理や理想を追求する精神」であるととらえ、夢や希望を持ち、粘り強く学び、変化の激しい社会で困難を乗り越えて積極果敢にたくましく生きる人間の育成</p>	<p><学校の教育目標> ティダ（夢実現）に向かって、胸を張って堂々と生きる子供を育てる</p> <p><海洋教育の目標> ○ 与論の海に関心を持ち、主体的に課題を解決できる子供を育てる。 ○ 活動内容に応じた追究方法やまとめ方を工夫しながら、協働して学習を進め、自分の考えを豊かに表現し、自らの生活のあり方を考える子供を育てる。</p>	<p><児童の実態> ・相手意識をもって考えを分かりやすく伝えたり、相手の話を聞いたりする力が十分ではない。 <保護者の願い> ・社会の変化に柔軟に対応できる強さをもって島たちして欲しい。 <地域の特性> ・子供一人一人を地域で見守っている。</p>
---	---	---

<p><他教科の関連></p> <p>① 各教科等の「見方・考え方」をつなぐ</p> <p>② 学習内容でつなぐ</p> <p>③ 指導方法でつなぐ</p>	<p>海洋教育を通して育みたい能力と態度(8 コンピテンシー)</p>		<p><地域との連携></p> <p>○ 各種教育施設や社会教育機関団体等との連携</p> <p>○ 地域の教材や学習環境の積極的な活用</p> <p>○ 与論町漁業協同組合・海の再生ネットワークよろん・ヨロンSC・誇れるふるさとネットワーク等との連携</p>
	<p>情報収集・判断</p>	<p>海に関して適切な情報を収集し、総合的に判断する能力</p>	
	<p>対話</p>	<p>海の諸場面で円滑なコミュニケーションを行うために他者を理解し自己を表現する能力</p>	
	<p>問題解決</p>	<p>海の諸問題にかかわる関係者間の調整を試みながら問題を解決する能力</p>	
	<p>持続的利用</p>	<p>海の恵みを持続的に利用できる能力</p>	
	<p>主体</p>	<p>海の諸問題に関して自ら責任ある行動を起こす積極的な態度</p>	
	<p>継続</p>	<p>未来を見据え変わりゆく社会に対応できるよう海に関する知識や技能を継続的に学習する態度</p>	
	<p>関係</p>	<p>海を介した時空間的なつながりを尊重する態度</p>	
<p>感動</p>	<p>海に親しみ大切にしている態度</p>		

<p>教材の工夫</p> <p>○地域の教育資源活用 ・地域の人、物、事に進んで関わりをもつため町内の自然や人材、行事等の学習素材を調査し整備する。 ・総合的な学習の時間や諸行事に協力支援できる人材を募り整理する。</p> <p>○教材化の視点 ・総合的な学習の時間において教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習が行われるように①②③のつながりを意識した教材にする。 ・各教科で得た知識や技能を総合的に発揮できる教材にする。 ・人や自然とのふれあいや道徳などで培った心情をさらに深めるような教材にする。</p> <p>※ 与論町海洋教育推進協議会との連携を図る。</p>	<p>問題解決的な学習における学習過程</p> <p>(1)「課題をつかむ」段階 ・教科学習の発展として ・行事等への主体的な関わりから ・生活の中の気づきから ・様々な体験から</p> <p>(2)「計画・追究する」段階 ・どこで、どのような方法で調べるか。 ・だれに、どのようにして伝えるか。</p> <p>(3)「まとめ・表現する」段階 ・分かったことや感想を自分の言葉でまとめる。 ・まとめたことをもとに交流する。 ・活動を振り返り、見直す。</p> <p>※ 体験活動を適切に位置付ける。 ※ 言語活動の充実を図る。</p>	<p>指導方法・指導体制の工夫</p> <p>○教師の適切な指導 ・児童の学習状況に応じた適切な指導</p> <p>○学習形態の工夫 ・学校の枠を超えた町単位での取組 ・学年の枠を超えた異学年での取組 ・課題別グループによる取組 ・表現方法別グループによる取組</p> <p>○指導体制の工夫 ・ゲストティーチャーの活用 ・ITの活用(担任外教職員との連携)</p> <p>○学習環境の工夫 ・活動内容により場の設定を工夫 ・学校図書館の資料の整備・充実 ・コンピュータソフトの整備・充実</p> <p>○評価の工夫 ・自己評価、相互評価</p> <p>※ 海洋教育における評価方法の工夫改善を図る。</p>
---	---	--

与論町立 茶花小学校

令和2年度 年間指導計画一覧表

学年/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年 伝統文化 国際理解	<p>☆身近にある自然環境と文化 「エンヌのひみつさがし」</p> <p>「エンヌたんけんたい」 (★海洋教育 25 時間) ○エンヌのいいところはどこ？ ○昆虫探しや海岸の生き物探しをしよう。 ○エンヌの施設・観光地探検をしよう。(一日遠足) ○エンヌのひみつを紹介しよう。</p> <p>「教えて、ウブ・バーバー」 (22 時間) ○与論の昔のこと ○ウブ・バーバーと昔の遊びを通して交流しよう。 ○与論の文化・伝統を調べよう。 ○発表会を開こう。</p> <p>わたしたちの生活と他地域とのつながり 「よろんから世界へ」 (23 時間) ○エンヌと交流のある地域 ○国々の生活や文化を調べよう。 ○ガイドブックを作って紹介しよう。</p>											
4年 環境 町づくり ものづくり	<p>☆身近な自然環境と島の人々、姉妹校による他地域とのつながり 「海と島とわたしたち」 (70 時間)</p> <p>「海からのおくりもの」 (★海洋教育 44 時間) ○ 海に親しむ活動を通して、海辺の自然環境に目を向けたり、地域素材を使ったものづくりの面白さを楽しんだりして、身近な自然環境について学ぶ。</p> <p>「島の人々」 (19 時間) ○ 身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々について学ぶ。 ○ 町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織について学ぶ。</p> <p>「東十条小との交流」 (7 時間) ○姉妹校について学び、作品を通して交流を図る。</p>											
5年 環境 食 伝統文化	<p>☆身近な自然環境とそこに起きている環境問題 「エンヌの海とわたしたち」 (★海洋教育 52 時間)</p> <p>○与論の海の今を知ろう。～課題設定～ ○与論の海を守ろう～情報の収集～ ○与論の海を守ろう～体験活動を通して～実態調査を通して～ ○学んだことを発信しよう</p> <p>地域の農業と生産者 「与論とわたしたち～特産物から～」 (15 時間) ○サトウキビについて知ろう ○サトウキビのお世話をしよう ○サトウキビを刈って、黒糖作りに挑戦しよう</p> <p>地域の伝統や文化 「与論とわたしたち～伝統文化から～」 (4 時間) ○13 祝いってなんだろう</p>											
6年 町づくり キャリア	<p>☆町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織 「ヨロンのタカラ探し!!」 (★海洋教育 54 時間)</p> <p>○修学旅行で与論と沖縄の違いを見つけ、まとめる。(興味・関心) ○与論のよさを考え、課題を決め、探究の計画を立てる。(課題の設定) ○グループのテーマに沿って調べる。(情報の収集) ○中間発表を行い、プレゼン大会 (島っこアイデアコンテスト) へ向けた計画を立てる。(整理・分析) ○中間発表での課題をもとに、発表の準備をする。(課題の追求) ○プレゼン大会 (島っこアイデアコンテスト) で発表する。(まとめ・表現)</p> <p>お世話になった方々への感謝と自己の将来 「卒業に向けて」 (16 時間) ○卒業に向けた取組を確認し、役割分担をする。(課題の設定) ○グループごとに、テーマを決めて取り組む。(課題の追求)</p>											

海洋教育全体計画

与論町立与論小学校

学校の教育目標				
主体的に学び、深く考え、確かな学力と豊かな心を身に付けた、たくましい子供を育てる。				
めざす子供像				
<ul style="list-style-type: none"> ○ 進んで学ぶ…課題をもち、意欲的に学習する子供 ○ 深く考える…よく考え、誠の心で行動する子供 ○ やりぬく…目標をもち、がんばる子供 				
海洋教育のねらい				
海洋教育は、海と人の関係について理解を深めるとともに、海洋教育の保全を図りつつ、国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指す。この目的を達成するために、海を知り、海に親しみ、海を守り、海を利用する学習を推進する。				
本年度の重点目標				
<ul style="list-style-type: none"> ○ 与論の自然豊かな海に関心をもち、課題を意欲的に解決できる子供を育てる。 ○ 探究・体験活動に進んで取り組み、自分の考えをもち、自己の生き方について考えることができる子供を育てる。 				
各学年の海洋教育の内容				
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○ふるさとたんけん和論島①(4月～7月) ○先人の知恵に学ぼう②(10月～12月) ○校内水泳大会、着衣水泳 ○思い出遠足 	育成を目指す具体的な資質・能力		
		知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
		自分たちのふるさと「和論島」について、海や地域のくらし、働く人の姿を調べることができる。	自ら設定した課題を解決するために見学やインタビューなど自分なりの方法で調査し、調べたことを工夫してまとめることができる。	課題の解決に向けて、目的意識をもって取り組むことができる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○与論の水①(12月～3月) ○遠泳大会、着衣水泳 ○思い出遠足 	育成を目指す具体的な資質・能力		
		知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
		川のない和論の人々が水を得るためにどのような苦労や知恵を伝へてきたか知り、水の大切さを考えることができる。	水のことについて調べ、自己の生き方につなげて考えることができる。	課題の解決に向けて、目的意識をもって意欲的に取り組むことができる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○与論をプレゼンしよう①(5月～7月) ○サンゴの愛護・保全活動体験②(10月～12月) ○宿泊学習 ○遠泳大会、着衣水泳 ○思い出遠足 	育成を目指す具体的な資質・能力		
		知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
		与論をテーマに伝えたいことを発見し、分かりやすいプレゼンの資料を作成することができる。	課題解決のために、必要な情報を集めることができ、それを整理することができる。	課題意識をもち、自分なりの方法で学習、探究活動に取り組むことができる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○与論のよさを伝えよう②(10月～3月) ○修学旅行 ○遠泳大会、着衣水泳 ○思い出遠足 	育成を目指す具体的な資質・能力		
		知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
		故郷である和論について改めて考えたり、調べたりすることを通して、与論のよさを実感することができる。	自分の興味・関心を基に、海洋教育に沿った学習課題を見つけ、考えることができる。	海洋教育に対して課題意識をもち、自分なりの方法で工夫しながら学習、探究活動に取り組むことができる。

海洋教育 年間年間指導計画

	1学期				2学期				3学期		
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生			校内水泳大会①	着衣水泳①							思い出遊果④
	ユニヌフトゥパ⑩										
2年生		道徳 「およげないり ずさん」	図画 「スイミー」	校内水泳大会①	着衣水泳①						思い出遊果④
	ユニヌフトゥパ⑩										
3年生			校内水泳大会①	着衣水泳①			道徳 「みんなのわき 水」				思い出遊果④
	ふるさとたんけん 与論島⑨				郷土芸能に親しもう⑧		先人の知恵に学ぼう④				
	ユニヌフトゥパ⑩										
				図画 「もうすぐ雨 に」							

海洋教育 年間年間指導計画

	1学期				2学期				3学期		
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4年生		社会 「水はどこか ら」	道徳 「海をこえて」 理科 「雨水のゆくえ と地球の様子」	遠泳大会② 着衣水泳①	図画 「ぼくは川」		社会 「台に置かれた 大地に水を引 く」				思い出遊果④
	ユニヌフトゥパ⑩										
5年生			理科 「海の誕生」 宿泊学習	遠泳大会② 着衣水泳①	社会 「水産物のさか んな地域」	サンゴの養殖・保全活動体験⑨					思い出遊果④
	与論をプレゼンしよう⑧						理科 「流れる水のは たらき」				
	ユニヌフトゥパ⑩										
6年生			修学旅行	遠泳大会② 着衣水泳①							思い出遊果④
	ユニヌフトゥパ⑩										
											図画 「海の命」 理科 「地球に生き る」

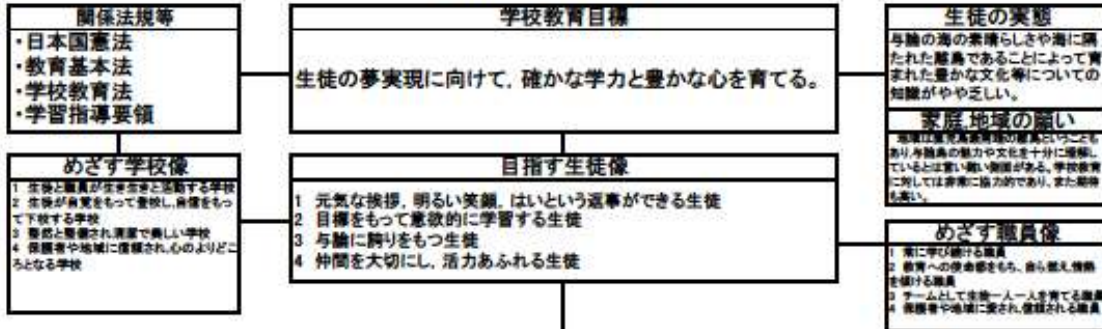
令和2年度 年間指導計画一覧表

学年/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																								
3年 伝統文化 国際理解	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>☆身近にある自然環境と文化 「ユンヌのひみつさがし」</p> <p>「ユンヌたんけんたい」 (☆海洋教育 23 時間・2 時間)</p> <p>○ユンヌのいいところはどこ？ ○昆虫探しや海岸の生き物探しをしよう。 ○ユンヌの施設・観光地探検をしよう。(一日遠足) ○ユンヌのひみつを紹介しよう。</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>「教えて、ウブ・バーバー」 (22 時間)</p> <p>○与論の昔のこと ○ウブ・バーバーと昔の遊びを通して交流しよう。 ○与論の文化・伝統を調べよう。 ○発表会を開こう。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> <p>わたしたちの生活と他地域とのつながり 「よろんから世界へ」 (23 時間)</p> <p>○ユンヌと交流のある地域 ○国々の生活や文化を調べよう。 ○ガイドブックを作って紹介しよう。</p> </td> </tr> </table>												<p>☆身近にある自然環境と文化 「ユンヌのひみつさがし」</p> <p>「ユンヌたんけんたい」 (☆海洋教育 23 時間・2 時間)</p> <p>○ユンヌのいいところはどこ？ ○昆虫探しや海岸の生き物探しをしよう。 ○ユンヌの施設・観光地探検をしよう。(一日遠足) ○ユンヌのひみつを紹介しよう。</p>	<p>「教えて、ウブ・バーバー」 (22 時間)</p> <p>○与論の昔のこと ○ウブ・バーバーと昔の遊びを通して交流しよう。 ○与論の文化・伝統を調べよう。 ○発表会を開こう。</p>	<p>わたしたちの生活と他地域とのつながり 「よろんから世界へ」 (23 時間)</p> <p>○ユンヌと交流のある地域 ○国々の生活や文化を調べよう。 ○ガイドブックを作って紹介しよう。</p>																					
<p>☆身近にある自然環境と文化 「ユンヌのひみつさがし」</p> <p>「ユンヌたんけんたい」 (☆海洋教育 23 時間・2 時間)</p> <p>○ユンヌのいいところはどこ？ ○昆虫探しや海岸の生き物探しをしよう。 ○ユンヌの施設・観光地探検をしよう。(一日遠足) ○ユンヌのひみつを紹介しよう。</p>	<p>「教えて、ウブ・バーバー」 (22 時間)</p> <p>○与論の昔のこと ○ウブ・バーバーと昔の遊びを通して交流しよう。 ○与論の文化・伝統を調べよう。 ○発表会を開こう。</p>																																			
<p>わたしたちの生活と他地域とのつながり 「よろんから世界へ」 (23 時間)</p> <p>○ユンヌと交流のある地域 ○国々の生活や文化を調べよう。 ○ガイドブックを作って紹介しよう。</p>																																				
4年 環境 町づくり ものづくり	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="12" style="padding: 5px;"> <p>☆身近な自然環境と島の人々、姉妹校による他地域とのつながり 「海と島とわたしたち」 (70 時間)</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="padding: 5px;"> <p>「海からのおくりもの」 (☆海洋教育 44 時間)</p> <p>○ 海に親しむ活動を通して、海辺の自然環境に目を向けたり、地域素材を使ったものづくりの面白さを楽しんだりして、身近な自然環境について学ぶ。</p> </td> <td colspan="4" style="padding: 5px;"> <p>「島の人々」(19 時間)</p> <p>○ 身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々について学ぶ。 ○ 町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織について学ぶ。</p> </td> <td colspan="4" style="padding: 5px;"> <p>「東十条小との交流」 (7 時間)</p> <p>○ 姉妹校について学び、作品を通して交流を図る。</p> </td> </tr> </table>												<p>☆身近な自然環境と島の人々、姉妹校による他地域とのつながり 「海と島とわたしたち」 (70 時間)</p>												<p>「海からのおくりもの」 (☆海洋教育 44 時間)</p> <p>○ 海に親しむ活動を通して、海辺の自然環境に目を向けたり、地域素材を使ったものづくりの面白さを楽しんだりして、身近な自然環境について学ぶ。</p>				<p>「島の人々」(19 時間)</p> <p>○ 身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々について学ぶ。 ○ 町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織について学ぶ。</p>				<p>「東十条小との交流」 (7 時間)</p> <p>○ 姉妹校について学び、作品を通して交流を図る。</p>			
<p>☆身近な自然環境と島の人々、姉妹校による他地域とのつながり 「海と島とわたしたち」 (70 時間)</p>																																				
<p>「海からのおくりもの」 (☆海洋教育 44 時間)</p> <p>○ 海に親しむ活動を通して、海辺の自然環境に目を向けたり、地域素材を使ったものづくりの面白さを楽しんだりして、身近な自然環境について学ぶ。</p>				<p>「島の人々」(19 時間)</p> <p>○ 身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々について学ぶ。 ○ 町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織について学ぶ。</p>				<p>「東十条小との交流」 (7 時間)</p> <p>○ 姉妹校について学び、作品を通して交流を図る。</p>																												
5年 環境 食 伝統文化	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="12" style="padding: 5px;"> <p>☆身近な自然環境とそこに起きている環境問題 「ユンヌの海とわたしたち」 (☆海洋教育 52 時間)</p> <p>○与論の海の今を知ろう。～課題設定～ ○与論の海を守ろう～情報の収集～ ○与論の海を守ろう～体験活動を通して～実態調査を通して～ ○学んだことを発信しよう</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="padding: 5px;"> <p>地域の農業と生産者 「与論とわたしたち～特産物から～」(15 時間)</p> <p>○サトウキビについて知ろう ○サトウキビのお世話をしよう ○サトウキビを刈って、黒糖作りに挑戦しよう</p> </td> <td colspan="6" style="padding: 5px;"> <p>地域の伝統や文化 「与論とわたしたち～伝統文化から～」(4 時間)</p> <p>○13 祝いってなんだろう</p> </td> </tr> </table>												<p>☆身近な自然環境とそこに起きている環境問題 「ユンヌの海とわたしたち」 (☆海洋教育 52 時間)</p> <p>○与論の海の今を知ろう。～課題設定～ ○与論の海を守ろう～情報の収集～ ○与論の海を守ろう～体験活動を通して～実態調査を通して～ ○学んだことを発信しよう</p>												<p>地域の農業と生産者 「与論とわたしたち～特産物から～」(15 時間)</p> <p>○サトウキビについて知ろう ○サトウキビのお世話をしよう ○サトウキビを刈って、黒糖作りに挑戦しよう</p>						<p>地域の伝統や文化 「与論とわたしたち～伝統文化から～」(4 時間)</p> <p>○13 祝いってなんだろう</p>					
<p>☆身近な自然環境とそこに起きている環境問題 「ユンヌの海とわたしたち」 (☆海洋教育 52 時間)</p> <p>○与論の海の今を知ろう。～課題設定～ ○与論の海を守ろう～情報の収集～ ○与論の海を守ろう～体験活動を通して～実態調査を通して～ ○学んだことを発信しよう</p>																																				
<p>地域の農業と生産者 「与論とわたしたち～特産物から～」(15 時間)</p> <p>○サトウキビについて知ろう ○サトウキビのお世話をしよう ○サトウキビを刈って、黒糖作りに挑戦しよう</p>						<p>地域の伝統や文化 「与論とわたしたち～伝統文化から～」(4 時間)</p> <p>○13 祝いってなんだろう</p>																														
6年 町づくり キャリア	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="12" style="padding: 5px;"> <p>☆町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織 「ヨロンのタカラ探し!!」 (☆海洋教育 54 時間)</p> <p>○修学旅行で与論と沖縄の違いを見つけ、まとめる。(興味・関心) ○与論のよさを考え、課題を決め、探究の計画を立てる。(課題の設定) ○グループのテーマに沿って調べる。(情報の収集) ○中間発表を行い、プレゼン大会(島っこアイデアコンテスト)へ向けた計画を立てる。(整理・分析) ○中間発表での課題をもとに、発表の準備をする。(課題の追求) ○プレゼン大会(島っこアイデアコンテスト)で発表する。(まとめ・表現)</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="12" style="padding: 5px;"> <p>お世話になった方々への感謝と自己の将来 「卒業に向けて」(16 時間)</p> <p>○卒業に向けた取組を確認し、役割分担をする。(課題の設定) ○グループごとに、テーマを決めて取り組む。(課題の追求)</p> </td> </tr> </table>												<p>☆町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織 「ヨロンのタカラ探し!!」 (☆海洋教育 54 時間)</p> <p>○修学旅行で与論と沖縄の違いを見つけ、まとめる。(興味・関心) ○与論のよさを考え、課題を決め、探究の計画を立てる。(課題の設定) ○グループのテーマに沿って調べる。(情報の収集) ○中間発表を行い、プレゼン大会(島っこアイデアコンテスト)へ向けた計画を立てる。(整理・分析) ○中間発表での課題をもとに、発表の準備をする。(課題の追求) ○プレゼン大会(島っこアイデアコンテスト)で発表する。(まとめ・表現)</p>												<p>お世話になった方々への感謝と自己の将来 「卒業に向けて」(16 時間)</p> <p>○卒業に向けた取組を確認し、役割分担をする。(課題の設定) ○グループごとに、テーマを決めて取り組む。(課題の追求)</p>											
<p>☆町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織 「ヨロンのタカラ探し!!」 (☆海洋教育 54 時間)</p> <p>○修学旅行で与論と沖縄の違いを見つけ、まとめる。(興味・関心) ○与論のよさを考え、課題を決め、探究の計画を立てる。(課題の設定) ○グループのテーマに沿って調べる。(情報の収集) ○中間発表を行い、プレゼン大会(島っこアイデアコンテスト)へ向けた計画を立てる。(整理・分析) ○中間発表での課題をもとに、発表の準備をする。(課題の追求) ○プレゼン大会(島っこアイデアコンテスト)で発表する。(まとめ・表現)</p>																																				
<p>お世話になった方々への感謝と自己の将来 「卒業に向けて」(16 時間)</p> <p>○卒業に向けた取組を確認し、役割分担をする。(課題の設定) ○グループごとに、テーマを決めて取り組む。(課題の追求)</p>																																				

☆…海洋教育関連

太字…探究課題 (各学年で取り組む大枠)

海洋教育全体計画



海洋教育で目指す生徒像			
1 様々な体験活動を通して海の自然に親しみ、海に選んでかかわろうとする生徒	2 海の自然や資源、人との深いかわりについて関心をもち、主体的に調べようとする生徒	3 海の環境保全に主体的にかかわろうとする生徒	4 水産物や資源、船舶等を用いた人や物資の輸送について理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解できる生徒

海洋教育の重点目標	
・職員自身が海洋教育への理解を深め、小学校、高等学校との関連性をもたせた教育課程を編成する。	・海洋教育年間計画を作成し、実施、評価、改善を常にやっていく。

育成すべき力と態度			
情報収集・判断力	対話力	問題解決力	主体的に学ぶ力
与論の海、世界の海に関して適切な情報を収集し、総合的に判断する能力	海洋教育の様々な場面や教育活動全般において円滑なコミュニケーションを行うために他者を理解し、自己を表現する能力	海や与論島の諸問題を主体的に考え、その問題解決のための手段を考え実行できる能力	海の恵みを持続的に利用する方法を学んだり、与論島の発展のために学び続けることができる能力
感動 海に親しみ、その美しさを次の世代にもつないでいこうとする態度	継続 未来を見据え変わりゆく社会に対応できるよう海に関する知識や技能を継続的に学習する態度	関係 海を介した時空間的なつながりによって育まれた与論独自の文化や風習を理解し、尊重する態度	主体 海の諸問題に関して自ら責任のある行動を起こす積極的な態度

各学年の重点目標及び主な活動、指導内容			
1学年	2学年	3学年	特別支援学級
重点目標 海に関する興味・関心を高め、主体的に学ぶ力の基礎を育み上げる。 活動例・指導内容 ・集団体験学習での与論の海に関する講話、海でのマリンスポーツ、安全に関する講話 ・修学旅行事前学習での口之津移住に関する史実の理解	重点目標 対話力が高められるように教育活動全般で、対話を意識した実践に努める。 活動例・指導内容 ・十五夜踊りに関する講話と見学 ・製糖工場等の職場見学 ・修学旅行での大牟田と与論会との交流	重点目標 情報収集・判断力を高めつつ、総合的な学習の時間のまとめレポートで問題解決力を発揮できるようにする。 活動例・指導内容 ・持続可能な社会に関する各教科学習 ・総合的な学習の時間のまとめレポートの作成	重点目標 海の美観心などに感動する態度を育み、安全に海に親しむ方法を学ぶ。 活動例・指導内容 ・該学年での総合的な学習における活動への参加

各教科	道徳	総合的な学習の時間	特別活動	その他の活動
教科の目標の中に「育成すべき力と態度」を見いだして、その向上に努める。(例：国語や英語の対話力など)教科の学習を通して、与論の海や海を通じた世界とのつながりについて考える契機とする。また将来の生活に必要な知識や技能を習得させ、生涯にわたって学習する喜びを見出させる。	人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。自己が属する様々な集団の意義について理解を深め、役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努める。勤労の尊さや意義を理解するとともに、専任の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。「郷土の先人」「不届の心」と「与論のことわざ」等を活用し、郷土の伝統と文化を尊重し、態度を養育する。	実践的な態度や能力を育成し、与論の自然や文化を多角的に見つめ、これからの自分の生き方を模索しようとする学習活動がおこなわれるようにする。郷土の魅力や課題を再発見する体験活動を通して、自己の将来について深く考え、与論島の未来を見据えながら自己実現を図ろうとする姿勢を育てる。	人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。学校行事では、「集団宿泊学習」「修学旅行」「文化祭」などの行事で「育成すべき力と態度」を育てることを意識した指導を実施していく。	朝読書の活動や給食指導、保健指導、生徒会活動等あらゆる教育活動の中で「育成すべき力と態度」を見いだして、その能力・態度の向上に努める。(例：朝読書の活動中の情報収集・判断力の育成など) 道徳指導においても島立ちを見据えた指導を行い、高等学校卒業後に自立した生活を送れるよう郷土に誇りを持ち、その良さを発信できる対話力を高め、いく指導を実施していく。

海洋教育を推進するための基盤・指導上の留意事項		
職員研修を行い、共通理解を図る推進組織の整備及び指導体制の確立、関係する分掌や職員の協力体制の強化	与論高校・3小学校などとの連携や交流	保護者、地域、関係機関との連携。海洋教育の重要性について情報を発信し、理解を図る。地域人材を生かした海洋教育の推進

海洋教育 年間指導計画 与植島の魅力 再発見～海に囲まれた島の過去・現在そして未来へ～

平成21年度

学期	第1学年			教科	学期	第2学年			教科	学期	第3学年			教科						
一学期	1	4	海洋教育に関するオリエンテーション	総合	一学期	1	4	海洋教育に関するオリエンテーション	総合	一学期	1	4	海洋教育に関するオリエンテーション	総合						
	2		サンゴに関する環境教育			2		先人に学ぶ(大牟田での交流)			2		2			環境体験学習1日目				
	3		海洋汚染に関して			3		3				3			3		3		3	
	4					4		4				4			4		4		4	
	5					5		5				5			5		5		5	
	6					6		6				6			6		6		6	
	7					7		7				7			7		7		7	
	8					8		8				8			8		8		8	
二学期	9	6	普及手法	総合	二学期	9	6	普及手法	総合	二学期	9	6	普及手法	総合						
	10		国土学習オリエンテーション			10		9				9			10		7		普及手法	
	11		第1回選択別編土学習			11		10				10			11		11		8	
	12		第1回選択別編土学習のまとめ			12		11				11			12		12		12	
	13					13		12				12			13		13		13	
	14					14		13				13			14		14		14	
	15					15		14				14			15		15		15	
	16					16		15				15			16		16		16	
三学期	17		口之津、大牟田港の歴史に学ぶ	総合	三学期	17		口之津、大牟田港の歴史に学ぶ	総合	三学期	17		口之津、大牟田港の歴史に学ぶ	総合						
	18					18		16				16			18		18			
	19					19		17				17			19		19			
	20					20		18				18			20		20			
	21					21		19				19			21		21			
	22					22		20				20			22		22			
	23					23		21				21			23		23			
	24					24		22				22			24		24			
	25					25		23				23			25		25			
	26					26		24				24			26		26			
27			27		25		25		27		27									
三学期	28		ユネスフトラバ学習①	総合	三学期	28		ユネスフトラバ学習①	総合	三学期	28		ユネスフトラバ学習①	総合						
	29		ユネスフトラバ学習②			29		26				26			29		29			
	30		1年間のまとめ			30		27				27			30		30			

総合的な探究の時間「ゆんぬ」 1・2学年 年間予定表

実施計画

月	日	曜	実施時間	実施場所	1学年学習内容	2学年学習内容	企画責任	学校行事など	備考	
4	15	水								
	22	水			クレペリン検査		正原・副田		教材配布	
	29	水						祭日	昭和の日	
5	6	水						祭日	振替休日	
	13	水			高校総体出発式			中間考査最終日		
	20	水			総合的な探究の時間オリエンテーション?		中込ゆづ 外郎藤野?		特別時間割?	
	27	水								
6	3	水							体育祭練習試合期間	
	10	水			小論文講習会		遠藤 外郎藤野			
	17	水								
7	24	水						期末考査		
	1	水								
	6	月							4限総探	
15	水									
夏休み 課題「 」										
9	2	水	1	各教室等	海洋教育			課題考査	※2-2は課題考査	
	9	水	1	各教室等	海洋教育			教育相談		
	16	水	1	各教室等	海洋教育			教育相談		
	23	水						片曜校時		
	30	水	1	各教室等	海洋教育					
10	7	水	1	各教室等	海洋教育					
	16	金			職業講話		遠藤	職業講話		
	21	水			薬物乱用防止教室			薬物乱用防止教室		
11	28	水	2		中間発表(午後)					
	4	水			※10月28日(水)に振り替え			運営委員会		
	11	水	1	各教室等	進路探究	修学旅行事前指導				
	18	水	1	各教室等	進路探究	修学旅行事前指導		期末考査期間		
12	25	水						期末考査		
	2	水	1	各教室等	海洋教育	修学旅行		2年修学旅行		
	9	水	1	各教室等	進路探究	海洋教育				
	16	水	1	各教室等	海洋教育	進路探究		職員会議		
1	23	水	1		海洋教育					
	冬休み 校内発表会に向けた準備									
	13	水	1	各教室等	海洋教育					
	15	金	2	体育館	総合的な探究の時間 校内発表会(午後)					
	21	木			合格体験発表会		遠藤	合格体験発表会		
2	27	水			※1月15日(金)に振り替え					
	3	水			※1月15日(金)に振り替え					
	10	水			ロードレース大会			ロードレース		
	17	水	1	各教室等	進路探究			学年末考査期間		
3	24	水						学年末考査		
	3	水	1	各教室等	海洋教育					
	10	水	1	各教室等	海洋教育	進路学習会		2年生進路学習会		
	17	水	1	各教室等	進路探究			合格発表・合格者集合		
24	水	1	各教室等	進路探究						

校外行事予定

1	29	金	与論町海洋教育学習発表会(仮称)
2	11	祝	全国海洋教育学習発表会(於:東京大学)

4. 各校学習指導案
茶花小学校

第5学年 総合的な学習の時間学習指導案


令和3年2月25日(木) 5校時
男子17名 女子8名 計25名
指導者 吉井 雅彦

1 単元 「ヨロンの海と私たち」

2 目標

ヨロンの美しい環境を守るために自分たちにできることについて発表し合い、その実現に向けて考えを提案することができる。 【思考力、判断力・表現力等】

3 実際

過程	主な学習活動	形態	時間	○教師の支援・■評価
つかむ	1 前時の学習を振り返る。 2 めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">美しい島の環境を守るアイデアを提案しよう。</div>	全体	2分	○ アイデアコンテストを行うにあたって注意点や評価の観点を確認する。(ワークシート)
見通す	3 本時の学習計画をから活動の見通しをもつ。	全体	1分	○ 学習の流れを掲示し、活動の見通しをもたせる。 ・発表→質疑応答→投票→結果発表→振り返り
調べる・深める	4 グループごとにアイデアを提案する。(質疑応答も含む) ・ウォークスタンプラリー ・ポイント制ごみ拾い ・ビンゴゲーム ・キーホルダー・バッジ ・ごみ拾いコンテスト <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自分たちだけでなく、みんなが楽しんで協力してもらえるようなものがある。</div> 	グループ	30分	○ 国語科の学習内容から、提案の仕方の工夫を意識させた発表を促す。 ○ 評価の観点を意識させながら、発表を聞くようにさせる。(ワークシート) ○ 発表内容から事前に質問してみたいことを用意させ、質疑応答が活発になるようにさせる。
まとめる	5 どのグループの提案が説得力等があったか投票を行う。 ・発表(声の強弱・速さ・間) ・提案内容(理由・効果・資料) ・アイデア(おもしろさ・実現性・協働性) 6 結果発表を聞く。 ・実現に向けてアイデアをよりよいものにしていく。	全体	9分	○ 評価の観点からみんなで協働して実現可能なアイデアについて選ばせる。 ■ ヨロンの自然環境を守るために自分たちにできるアイデアを比較し、どの内容を選択すべきなのか判断できたか。 【思考力、判断力、表現力等】 ○ 率直な意見交換から選ばれたアイデアの改善の視点をもたせる。
振り返る	7 本時の学習を振り返り、次時の活動について確認する。	個人	3分	○ 「わでともか」を使い学習を振り返らせる。(ワークシート)

海洋教育 「ヨロンの海と私たち」

名前 _____

めあて

美しい島の環境を守るアイデアを提案しよう。

審査項目について

提案の仕方	声の強弱・話す速さ・間の取り方
提案内容	構成（提案理由、効果、資料）
アイデア	おもしろさ、実現性、協働性

班	提案内容・質問メモ	審査項目	得点（5）	総合得点（15）	順位
4	ビンゴ	提案の仕方			
		提案内容			
		アイデア			
2	ごみ拾いコンテスト	提案の仕方			
		提案内容			
		アイデア			
3	ポイント制ごみ拾い	提案の仕方			
		提案内容			
		アイデア			
5	キーホルダー、バッジ	提案の仕方			
		提案内容			
		アイデア			
1	ウォークスタンプラリー	提案の仕方			
		提案内容			
		アイデア			

わ・で・と・も・か



ヨロンのタカラ探し

実施日：令和2年7月3日（金）
3・4校時

実施校：与論町立茶花小学校
対象：6年生児童23名

指導者

T1 前園 麻美 先生

T2 田畑 香織 さん
磯村 愛子 さん
(海洋教育推進協議会事務局)

学習のねらい

海に囲まれた与論島にはどんな強みがあり、どのような問題点があるのでしょうか。年間を通じた探究により、与論をよりよくするためのアイデアを各グループが地域に発信していく、年間を通じた大単元です。



本授業における「海と人との共生」のための視点

- 海に親しむ
- 海を知る
- 海を守る
- 海を利用する

本時に至るまで





これまでの郷土学習から得た知識や、地域の大人たちの声を踏まえ、本時の2か月前から、自分たちにできる「町おこし」の方法をグループごとに考え始めています。探究グループは全部で6チーム。それぞれのチーム名は次の通りです。


- ① 環境保全アイデアチーム
- ② 特産品開発チーム
- ③ 隠れスポット発信チーム
- ④ 伝統&エコチーム
- ⑤ 海図鑑チーム
- ⑥ 映像制作チーム

授業の実際

学習過程	時間(分)	学習活動	授業スナップ
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ はじめのあいさつをし、本時の学習のねらいについて、担任の先生の説明を聞く。 ○ チームごとに、この時間での到達目標を確認し合う。 	今日は調べ学習を〇〇まで進めたいね。そのために、ぼくたちはこの2時間をどう使ったらいいかな。
展開	70	<ul style="list-style-type: none"> ○ チームごとに調べ学習を進める。必要に応じて、担任や地域サポーターの助言をもらう。 <p>どの資料を用いたら、あなたたちが考える問題点が相手に効果的に伝わるかな。提示の仕方も考えながら、集めた資料を選んでいきましょう。</p>	

展開	70	<p>どうしたら与論の海のよさが伝わるかな。自分たちが海で遊んだ体験を思い出しながらまとめてみよう。</p> <p>与論の環境を守るには、大人たちの「エコ」についての意識を高めるべきだね。楽しみながらエコの意識を高める方法はないかな。</p> <p>インターネットや本に載っている情報も大切だけど、自分たちの体験や、島の大人たちの意見を取り入れていくと、より与論らしいアイデアを生み出すことができるでしょう。</p> <p>○ 今日の調べ学習の成果をチームごとに発表し合い、助言し合う。</p>	
まとめ	10	<p>○ 本日の学習を振り返り、次の時間の活動内容を知る。</p> <p>7月8日(木)には地域の方々を教室にお呼びします。自分たちのアイデアについて感想をいただき、参考にしましょう。</p>	

授業後の活動について



南海日日新聞朝刊(1/30)より

年が明けた1月29日(金)、6チームは、小・中・高等学校が海洋教育の学びをつなぐ「ヨロン海洋教育フェア」で探究の成果を発表しました。

各チームは、環境保全と観光振興を両立するためのアイデアや、島の海産物を生かして開発した料理、自分たちで撮影・編集した島のPR動画などを次々に披露しました。参加した児童生徒はもちろん、地域から来場した大人たちも、与論島の未来に対する茶花小6年生の熱い思いに心を打たれていました。

子供たちの感想から

「発表のため、約1年かけて準備してきました。特産品の実現に向け、自分たちがしてきたことをこれからも発信していくことが大事だと思います。」
(発表を終えた「特産品開発チーム」の児童の感想)



本授業で高まったと考えられる資質・能力

<input checked="" type="checkbox"/> 情報収集・判断	<input checked="" type="checkbox"/> 対話	<input checked="" type="checkbox"/> 問題解決	<input checked="" type="checkbox"/> 持続的利用
<input type="checkbox"/> 感動	<input checked="" type="checkbox"/> 関係	<input type="checkbox"/> 主体	<input type="checkbox"/> 継続



サンゴを増やそう

学習のねらい

古くからサンゴに恩恵を受けてきた与論島。そのサンゴが失われつつあることに問題意識を持った児童が、漁業協同組合の皆さんとともに、サンゴの増殖活動に取り組みます。

実施日：令和2年12月12日（土）

1～2校時

実施校：与論町立与論小学校

対象：5年生児童23名

指導者

T1 与論町漁業協同組合の皆さん

T2 清藤 賢一 先生



本授業における「海と人との共生」のための視点

海に親しむ 海を知る 海を守る 海を利用する

本時に至るまで



与論小の5年生はこのサンゴ増殖活動の直前に、鹿児島大学の先生方や、与論町漁業協同組合の皆さんから、「サンゴが島にとってなぜ大切か」というお話をいただきました。（その授業については、茶花小の実践記録を参照してください）。

サンゴのよきとは 魚にとって一身をかくす・体を休める・食事をとる・生きるために利用する e.t.c
人にとって一水産物を与える・防波堤の役割をする・学びの機会を与える e.t.c

授業の実際

学習過程	時間(分)	学習活動	授業スナップ
導入	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ はじめのあいさつをし、本時の学習のねらいについて、担任の先生の説明を聞く。 <p>先ほどの学習でサンゴの大切さが分かったと思いますので、ここからは実際に「サンゴ再生」の取組に関わってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 漁業協同組合の皆さんから、サンゴ増殖の方法について説明していただく。 <p>※ 必要な道具…サンゴの苗、基盤材、針金、ペンチ、海の水を張った容器</p>	

展開	3 2	<p>○ 各自が、サンゴの苗を基盤材に取り付ける。</p>  <p>私のサンゴ、色が変わってきたんですけど……。</p> <p>その色は「苦しいよ」のサインですね。ペンチで針金をゆるめてあげるといよ。安心してね。</p>   	 
まとめ	3	<p>○ 今日の活動をまとめ、感想を発表する。</p> <p>○ 鹿児島大学の先生方と漁業協同組合の皆さんにお礼を述べ、終わりのあいさつをする。</p>	

子供たちの感想から

「サンゴがなくなったら魚のすむところなくなって、海の魚が少なくなると思っています。サンゴは、海の魚たちが集まってくる場所なので、与論の海でもサンゴを養殖して増やしていくことがとても大事だと思います。」


授業後の様子



南海日日新聞
朝刊(12/19)より

このサンゴ増殖活動には、町内の全ての小学校が参加しました。そして、その活動の様子は、奄美群島内の新聞や、町内の全戸に配られる広報誌に記事として取り上げられました。

その記事への反響は大きく、子供たちの姿から改めて「サンゴの再生・保全の大切さ」を意識した大人たちも多かったと聞いています。



本授業で高まったと考えられる資質・能力

<input type="checkbox"/> 情報収集・判断	<input type="checkbox"/> 対話	<input checked="" type="checkbox"/> 問題解決	<input checked="" type="checkbox"/> 持続的利用
<input type="checkbox"/> 感動	<input type="checkbox"/> 関係	<input checked="" type="checkbox"/> 主体	<input type="checkbox"/> 継続



海のふしぎを知ろう

学習のねらい

与論島の水環境、水の循環について学びます。そして、与論の水を用いた実験(バックテスト)を行いながら、自分たちは暮らしの中で水とどのように関わっていけばよいか考えます。

実施日：令和3年1月29日(金)
2・3校時

実施校：与論町立与論小学校
対象：4年生児童17名

指導者

- T1 池田 香菜 さん (NPO 法人海の再生ネットワークよろん)
- T2 中野 拓治 客員教授 (琉球大学農学部)








本授業における「海と人との共生」のための視点

- 海に親しむ 海を知る 海を守る 海を利用する

授業の実際

学習過程	時間(分)	学習活動	授業スナップ
導入	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ はじめのあいさつをし、本時の学習のねらいについて、担任の先生の説明を聞く。 ○ 中野先生と池田さんの自己紹介を聞く。 ※ 中野先生は東京からオンラインによる参加 	
展開	75	<p>地球がバスケットボールくらいの大きさだとすると、地球の水はどれくらいの量だと思う？ また、その量のうち、私たち生き物が飲むことができる水はどれくらいの量だろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中野先生のお話から、私たち人間が使える水は地球上にはわずかしかないことを知る。 <p>地裁上の水はサイコロくらいしかないんだね。</p> <p>私たち生き物が飲むことができる水は、それよりももっともっとな少ないんだ。驚いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地球上の水の循環について知る。 <p>その「限られた水」は、この図のように地球上を循環しているんだよ。もちろん、与論島でも、水は、君たちの周りで毎日循環しています。</p>	

	<p>○ 与論島では、地下水を浄水場で飲み水にし、生活排水を浄化槽などできれいにしてから海に流していることを知る。</p> <p>日本人は湯船にお湯をはるから、他の国よりも水の使用量が多いんだって。</p> <p>天ぷら油をそのまま流すのは絶対ダメだね。</p> <p>○ 与論町で採集した水を使い、グループでバックテストを行う。</p> <p>5種類の水「水道水」「雨水」「地下水」「排水路」「海水」について窒素とリンの濃度を計る。バックテストの結果を基に、色が「こい→うすい」の順に並べ替え、それぞれの色の違いから気付いたことを考える。</p> <p>比べて見ると、水道水が一番混じりけがないことが一目でわかるね。</p> <p>排水路ではリンが濃いね。どうしてだろう。池田さんに質問してみよう。</p> <p>○ 「私たちの暮らしが与える海の生き物への影響」について考える。</p> <p>中野先生のお話や、実験結果をもとに、自分たちの生活が海の生き物へどのような影響を与えているのか考えてみましょう。</p>	   
<p>まとめ</p>	<p>10</p> <p>大切な水と、海の生き物を守るために、自分たちにできることはないかな。</p> <p>○ 授業での学びを生かして自分たちにできることをワークシートに書き、発表し合う。</p> <p>○ 終わりのあいさつをする。</p>	

子供たちの感想から

「与論に置かれている『拾い箱』の役割をもっと多くの人に知ってもらうために、ポスターを描いてみたらどうかな、と思いました。」

「普段から、節水をしたり、洗剤の使いすぎに気を付けたりしたいです。」



本授業で高まったと考えられる資質・能力

- 情報収集・判断 対話 問題解決 持続的利用
 感動 関係 主体 継続



海のふしぎを知ろう

学習のねらい

与論島は海に囲まれた島で、海は子供たちにとって身近な自然そのものです。「そもそも海ってどんなところ?」という切り口から、海に関する「ふしぎ」について学び、海についての理解を深めます。

実施日：令和2年9月8日（火）

5・6校時

実施校：与論町立那間小学校

対象：4年生児童10名

指導者

T1 池田 香菜 さん
(NPO 法人海の再生ネットワークよろん)




T2 海老原 仁 先生









本授業における「海と人との共生」のための視点

海に親しむ 海を知る 海を守る 海を利用する

授業の実際

学習過程	時間(分)	学習活動	授業スナップ
導入	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ はじめのあいさつをし、本時の学習のねらいについて、担任の先生の説明を聞く。 ○ 池田さんの自己紹介を聞く。 ○ 「海ってどんなところ?」という問いに対する自分なりの考えをワークシートに記入し、互いに発表し合う。 <p>海ってどんなところ? 自分の知っていることを書いてみよう。</p> <p>とても深くて、泳ぐことができるところ。</p> <p>生き物がたくさんいるところ。</p>	 
展開	25	<ul style="list-style-type: none"> ○ 池田さんの、「海のふしぎ」についてのお話を聞く。児童とのやりとりやクイズ等を取り入れながら、興味をもたせる工夫をする。 <p>海の水はどこからくるのかな? 海の深さってどれくらいだろう。 海の水がしょっぱいのはなぜ? どうして、海って青く見えるの? 「波」はどうやってできるのかな?</p>	

	<p>○ 自分たちの校区にある海岸に目を向けさせ、それぞれの海岸に特徴があることに気付かせる。</p> <p>ここは、映画「めがね」の撮影地となった寺崎海岸、そしてここは、那珂小のみんなが遠泳大会をする船倉海岸だね。</p> <p>○ 5つの海岸の砂浜から採取した砂を見比べ、一つだけ色の違う砂があることに着目させる。</p> <p>一つだけ少し暗い色の砂があるね。どこの海岸の砂だろう。そして、どうしてこの砂浜だけ、砂の色が違うんだろう。</p> <p>少し黒いから、<u>黒花海岸</u>かな。</p> <p>皆田海岸の砂浜がこんな色だったと思うよ。</p> <p>○ 雨が降ると高台の赤土がこの海岸の砂浜に流れ込むために、この海岸の砂は他の砂浜よりも少し暗い色になっているということを知る。</p>	  
<p>まとめ 10</p>	<p>○ 「海のふしぎ」についてのお話から分かったことをワークシートにまとめ、発表し合う。</p> <p>リーフの中と外では海の深さが全然ちがうんだな。与論の海がエメラルドグリーンに見えるのは、白い砂浜が海の中まで続いているからなんだ。</p> <p>○ 終わりのあいさつをする。</p>	
		<p>※ 本授業後に、池田さんと海老原先生も参加して、「『海の生き物』いずり取りゲーム」や「生き物のつながりゲーム」をして楽しみました。このコーナーも、子供たちにとって、とてもよい学びの機会になりました。</p>

子供たちの感想から

「(略)これまで海のことはあまり考えたことがなかったです。いちばんびっくりしたのは『海がなぜ青いか』です。」
「海の深さや色のことを、べんきょうして初めて知ったのでうれしかったです。」



本授業で高まったと考えられる資質・能力

- 情報収集・判断
- 対話
- 問題解決
- 持続的利用
- 感動
- 関係
- 主体
- 継続

サンゴを増やそう

学習のねらい

サンゴの隆起によってできている与論島ですが、そのサンゴたちは、様々な問題に直面しているようです。海の専門家を与論島にお招きし、与論のサンゴを取り巻く状況について学びました。

実施日：令和2年12月11日（金）
5～6校時

実施校：与論町立那間小学校

対象：4・5年生児童 計21名





指導者


藤枝 繁 特任教授
(鹿児島大学産学・地域共創センター)
松岡 翠 技術職員、
(鹿児島大学水産学部)

本授業における「海と人との共生」のための視点

海に親しむ 海を知る 海を守る 海を利用する

授業の実際

学習過程	時間(分)	学習活動	授業スナップ
導入	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ はじめのあいさつをし、本時の学習のねらいについて、担任の先生の説明を聞く。 ○ 漁業協同組合の皆さんから、松岡先生と藤枝先生の紹介をしていただく。 	
展開	39	<ul style="list-style-type: none"> ○ 松岡先生から、サンゴと、サンゴとともに生きる海の生き物についてのお話を聞く。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> サンゴの周りには、たくさんの生き物が集まってきました。クマノミ、イソギンチャク、ウミウシ、ポンポンクラブ、ブダイ、……それらの生き物は、サンゴとともに生きています。 </div> ○ サンゴのよさをまとめる。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ここまでの話を聞いて、「サンゴのよさ」にはどのようなものがあると思いましたか。 </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0; background-color: #e0ffe0;"> サンゴのよさは、次のような点だと思いました。 魚にとって → 身をかくす・体を休める・食事をとる・生きるために利用する e.t.c 人にとって → 水産物を与える・防波堤の役割をする・学びの機会を与える e.t.c </div> 	  

	<p>○ サンゴが危機に瀕していることを知る。</p> <p>白化現象, オニヒトデの大量発生, 観光客の増加によるダメージ, 異状気象…。ある研究者は, 2100年までの今あるサンゴのほとんどはなくなってしまうと言っています。</p> <p>与論からサンゴがなくなったら, 大変だぞ。</p> <p>○ 藤枝先生から, 海洋ゴミが生物に与える影響についてのお話を聞く。</p> <p>私が世界中の海辺で拾った「海洋ゴミ」のコレクションを紹介します。</p> <p>○ 日本の海洋ゴミが北太平洋を渡り, ミッドウェー諸島の鳥たちに大きな被害を与えていることを知る。</p> <p>外国のゴミが与論島に流れ着くことは知っていたけど, 日本のゴミが海外に流れ着いていることは知らなかったな。</p>	
<p>まとめ</p>	<p>3</p> <p>○ 今日の活動をまとめ, 感想を発表する。</p> <p>○ 鹿児島大学の先生方にお礼を述べ, サンゴ増殖活動の準備をする。</p>	

子供たちの感想から

「ブダイがサンゴをかじっても, そのかみ口は治るけど, オニヒトデは, 治らないくらいサンゴを食べつくしてしまうことを初めて知りました。」
「サンゴを増やす活動に関わることができてうれしいです。」

授業後の様子

	<p>この後, 那間小学校の4・5年生は, 茶花漁港に移動して, サンゴの増殖活動に取り組みました。(サンゴの増殖活動については, 与論小学校の授業実践記録に詳細を掲載しています。)</p>
---	---



本授業で高まったと考えられる資質・能力

- 情報収集・判断 対話 問題解決 持続的利用
 感動 関係 主体 継続

海洋教育学習指導案

1年 男子33名 女子27名 計60名

指導者 教諭 久長・水谷・小水流

講師 南 勇輔（学芸員）

1 題材名 「史跡巡り」（テーマ：海に親しむ・海を知る）

2 本時の実際

(1) 目標 与論島内の史跡を巡り、与論島の歴史・主な事象について、また、先人や文化、できごとについて理解することができるようにする。

(2) 展開

	学習活動	時間	指導上の留意点
導 入	1 活動の目的を確認する。 学習課題 与論島には、どのような歴史があっただろうか。	5分	・ 郷土学習の意義を理解させる。
展 開	(学校から移動) 2 講師紹介・活動の流れ説明を受ける。 3 与論城跡を巡り、歴史上の出来事の解説を聞く。 4 休憩 5 与論城跡を巡り、歴史上の出来事の解説を聞く。 6 活動の反省をする。 (学校へ移動)	15分 10分 50分 10分 30分	・ 資料を活用して城の特徴を理解させる。 ・ 地層と崖の形状に注目させる。 ・ 学んだことをワークシートに記入させる。
終 末	まとめ 与論城は島の地形を巧みに利用して築城され、海上交通を抑える上で重要な役割を果たしていた。	10分	

(3) 評価

与論島内の史跡を巡り、与論島の歴史・主な事象について、また、先人や文化、できごとについて理解することができたか。

海洋教育学習指導案

2年1組 男子11名 女子16名 計27名

指導者 教諭(河内 愛里)

講師 (特定非常勤嘱託人ヨロシ SC職員2名)

1 題材名 着衣水泳

2 本時の実際

(1) 目標

安全に水辺で活動するための基礎的な知識、対処法を身に付け、自分の命を守る方法、また周りの人たちと助け合う方法を知り、体験を通して習得する。

(2) 展開

	学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 挨拶、準備運動を行う。 2 パディを組む。 3 学習のねらいを確認する。 学習課題 衣服を着たまま水に落ちたときの対処法について学ぼう。	7分	・事前に生徒の健康状態を十分に把握しておく。 ・常にパディを意識させて、相手の安全を確認させる。 ・着衣したままでの水泳の練習には危険が伴うことを認識させ、十分に注意を促す。
展開	4 着衣したまま水の中にいる感覚を知る。 5 ペアで浮き身の練習をする。 (1) 背浮き (2) 身の回りの物を利用する方法 (3) 周りの人と助け合う方法 6 ライフジャケットの大切さについて知る。	5分 28分 7分	・着衣したまま水に落ちたときの動きにくさを知る。 ・ペットボトルなど、身近にあるものを利用して良いことをアドバイスする。 ・決して泳いで助けにいかないことを伝える。 ◎水中で自分の命を守る方法、周囲の人たちと助け合う方法を習得する。 (評価) ・ライフジャケットを着用したときとしていないときの浮く感覚の違いを感じさせることで、着用の大切さに気付かせる。
終末	7 学習のまとめをする。 まとめ 衣服を着たまま水に落ちたときの対処法には、背浮きや身の回りの物を利用する、周りの人と助け合うなどの方法がある。	3分	・離岸流の危険性を伝える。 ・万が一、水の事故にあったとしても落ち着いて対処することを確認する。

(3) 評価

安全に水辺で活動するための基礎的な知識、対処法を身に付け、自分の命を守る方法、また周りの人たちと助け合う方法を知り、体験を通して習得することができたか。

海洋教育学習指導案

3年1組 男子19名 女子18名 計37名

指導者 教諭(白山 浩也)

講師(与論町環境課 光 俊樹)

1 題材名 「与論島とウミガメ」

2 本時の実際

(1) 目標

与論島におけるウミガメ調査の結果を知り、観光と自然、漁業との共生について考える。

(2) 展開

	学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 学習内容を確認する。 学習課題 ウミガメとどのようにして共生していけばいいだろうか。	一斉 5分	1 講師の先生を紹介し、ワークシートを配布する。
展開	2 与論近海で見られるウミガメについて知る。	一斉 5分	2 パワーポイントを用いて、画像や動画を紹介しながら関心を高める。
	3 ウミガメを取り巻く状況を知る。	一斉 15分	3 上陸・産卵状況や混獲の状況等、与論島の現状を把握させる。
	4 観光と自然、漁業の共存について考える。	班 15分	4 与論島で見られるウミガメの数は増えているが、被害が出ている側面も知らせ、自分のこととしてウミガメとの共生を考えさせる。
閉	5 グループごとに感想を発表する。 ウミガメのことに興味をもち、何をすべきか、考えて行動に移す。	一斉 5分	5 グループ発表の内容から生徒の言葉を使ってまとめる。
	6 ワークシートに感想をまとめる。	5分	6 自分の言葉で記入できるように机間指導をする。

(3) 評価

与論島におけるウミガメ調査の結果を知り、観光と自然、漁業との共生について考えることができたか。

海洋教育学習指導案

3年1組 男子19名 女子18名 計37名

指導者 教諭（白山 浩也）

講師（池田 龍介）

1 題材名 海ゴミから考える「自然と人間の共生」

2 本時の実際

(1) 目標

漂着ごみが発生している原因を知り、日常生活の取り組みでそれを減らすためにどのようなことができるか自分の生活を振り返り、実践する態度を養う。

(2) 展開

	学習活動	時間	指導上の留意点
導 入	1 講師の紹介	7分	○ ワークシートの配布 ○ 教諭はT2として授業に関わり、板書等を行う。
	2 学習課題の確認 学習課題 漂着ごみを減らすには、日常生活の中でどんなことに取り組みばよいだろうか。		
展 開	3 海ゴミ・マイクロプラスチックの現状と問題について知る。	9分	○ 与論の海ゴミと同じような問題が世界中で起こっていることを知り、関心を高めさせる。
	4 使い捨てゴミ増加の社会背景、3Rについて知る。	9分	○ 理科や技術等での既習事項と照らし合わせ、環境保全に関連する内容を思い出せるような補助発問を心がける。
	5 生活排水と海の繋がりについて学ぶ。	9分	○ 与論では、家庭の排水がどう処理されているのか知り、家庭排水が世界の海と繋がっていることを実感する。
	6 海を汚さない食器洗い・暮らしについて	9分	○ 生徒が消費者になっていった際に購入するものによって環境保全に貢献できることが意識できるような補助発問を心がける。
終 末	7 まとめ 海ゴミを減らすために日常生活を見直そう。	7分	○ 実践内容を生徒から引き出し、板書する。

(3) 評価





漂着ごみが発生している原因を知り、日常生活の取り組みでそれを減らすために具体的に実践する内容を決定することができたか。

総合的な探究の時間「ゆんぬ」実践記録【1年生】

鹿児島県立与論高等学校
第1学年41名

- ねらい
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育む。
- 探究の大テーマ
海に囲まれた島の人たちへのまなざしをもって、海と人との共生のあり方を考える。

3 実践の記録

実施月	内容											
7月	探究課題の設定・グループ分け											
8～9月	資料調査・考察、フィールドワーク											
10月	<p>中間発表会【10月28日】</p> <p>1年生が10グループに分かれ、ポスター発表の形式で学びの中間報告をした。発表会場には、同じ学年の生徒だけでなく、町内の商業・観光業・行政等の分野から参加した地域サポーターも数多く集まった。</p> <p>発表後、地域サポーターから、それぞれの経験や知識に基づく具体的なアドバイスや助言がなされ、今後の探究を充実させるための貴重な時間となった。</p> 											
11～12月	調査・考察											
1月	<p>校内発表会【1月15日】</p> <p>同学年及び2年生の生徒や、地域のサポーターに対して、探究の成果を「テーマの設定理由」「実態・調査内容」「自分たちにできること」の流れで報告した。</p> <p>「自分たちにできること」の発表場面では、環境保全活動につながる商品のアイデアと開発の計画が示されるなど、具体的な活動指針が示されていた。</p> <table border="1" data-bbox="432 1413 1082 1771"> <thead> <tr> <th>発表タイトル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観光業の未来について考える～与論をよりよくする方法～</td> </tr> <tr> <td>環境を保全するうえで私たちにできることは</td> </tr> <tr> <td>与論の文化「伝統芸能」</td> </tr> <tr> <td>与論島は少子高齢化しているのか・していないのか？</td> </tr> <tr> <td>数十年後消滅する与論を救え！</td> </tr> <tr> <td>与論の観光業の過去と現在</td> </tr> <tr> <td>与論の冠婚葬祭</td> </tr> <tr> <td>ゆんぬブランド</td> </tr> <tr> <td>与論の浜をきれいに保つために</td> </tr> <tr> <td>与論の観光を活性化するためにはどうすればよいか</td> </tr> </tbody> </table>   	発表タイトル	観光業の未来について考える～与論をよりよくする方法～	環境を保全するうえで私たちにできることは	与論の文化「伝統芸能」	与論島は少子高齢化しているのか・していないのか？	数十年後消滅する与論を救え！	与論の観光業の過去と現在	与論の冠婚葬祭	ゆんぬブランド	与論の浜をきれいに保つために	与論の観光を活性化するためにはどうすればよいか
発表タイトル												
観光業の未来について考える～与論をよりよくする方法～												
環境を保全するうえで私たちにできることは												
与論の文化「伝統芸能」												
与論島は少子高齢化しているのか・していないのか？												
数十年後消滅する与論を救え！												
与論の観光業の過去と現在												
与論の冠婚葬祭												
ゆんぬブランド												
与論の浜をきれいに保つために												
与論の観光を活性化するためにはどうすればよいか												
2～3月	まとめ・次年度への課題設定											

総合的な探究の時間「ゆんぬ」実践記録【2年生】

鹿児島県立与論高等学校
第2学年 40名


1 ねらい

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育む。

2 探究の大テーマ

海に囲まれた島の人たちへのまなざしをもって、海と人との共生のあり方を考える。

3 実践の記録

実施時期及び内容			
7～9月 探究課題の設定・グループ分け、資料調査・考察、フィールドワーク ※ フィールドワーク実施までの流れ (1) テーマ設定の理由の明確化 (2) テーマの概要(現状・背景・歴史)の把握 (3) テーマの課題・問題点の明確化 (4) 課題・問題点の解決策(仮説)の検討 (5) フィールドワークの調査課題と場所・相手の設定 (6) フィールドワークの実施			
10月 中間発表会【10月28日】 ※詳細は1年生の実践記録を参照のこと			
11～12月 調査・考察			
1月 校内発表会【1月15日】 同学年及び1年生の生徒や、地域のサポーターに対して、探究の成果を「テーマの設定理由」「実態・調査内容」「自分たちにできること」の流れで報告した。			
全発表タイトル			
【福祉・医療分野】 コロナ禍での医療 与論の保育・少子化について 与論の医療について 【環境問題】 与論のサンゴについて 与論の自然環境 与論のリーフ 与論の砂が白い謎 海の生き物 与論の海を守るために 台風被害について	【伝統・文化】 ゆんぬエイサー 大島袖 与論のムスガッタイ 【歴史】 与論の文献 与論の今と昔について 昔の生活 与論と太平洋戦争 与論と戦争	【与論高校について】 与論高校の校歌 与論高校の歴史 与論の学生あるある 【特産物】 与論で作られたサトウキビ もずく 【自然環境】 島の生き物 ホロホロ鳥について	【観光】 与論の写真スポット 与論の星空に関する光害について 与論の星空とその活用について 星を求めて 百合ヶ浜 ヨロシマラソンのコースについて 与論の観光 与論の海遊び
3 問題点・解決策 ・問題点 ① 明るい光、つけっぱなしで 夜空の星が見えにくい (前期、自家製の光など) ・解決策 ② 暗い場所へ行く ③ 星空の分布図の作成が必要 与論島の光害マップ   			
2～3月 まとめ・次年度への課題設定			

5. 第1回ヨロン海洋教育フェア

実施日：令和3年1月29日

会場：メイン会場 茶花小学校 体育館
サブ会場A 与論中学校 1年生各教室
サブ会場B 与論高等学校 パソコン室
サブ会場C 東京大学海洋教育センター
※メイン会場とサブ会場はオンラインで接続

参加者：与論小学校5年生
茶花小学校6年生
那間小学校5年生
与論中学校1年生
与論高等学校1年生，2年生
地域サポーター，与論町教育長，海洋教育部会会長・顧問，与論ライオンズクラブ代表保護者，その他の地域住民
(地域サポーター23名，保護者15名が参加)

目的：

- (1) 町内の小・中・高等学校が海洋教育の学習成果を共有することで，児童生徒の個々の学びを深める機会とする。
- (2) 与論島の未来について児童生徒と地域の大人が語り合い，学び合うことで，海洋教育の地域展開を推進する。

内容：

14：10～14：15（5）	開会式 ・開会のあいさつ（教育長） ・コンテストの説明
14：15～15：05（50）	発表Ⅰ（茶花小学校） ※来賓及び地域サポーターによる投票
15：05～15：10（5）	休憩
15：10～15：20（10）	「よろん夢語り the MOVIE 1st」の視聴 ※与論SCのアナウンス含む
15：20～15：40（20）	発表Ⅱ（与論高等学校） ※エキシビション形式

15 : 40 ~ 15 : 50 (10) 閉会式



6. 「海洋教育子どもサミット 2021 in おおむた」

参加日：令和3年1月22日

参加校：茶花小学校6年生（オンライン参加）

発表者：映像制作チーム



与論町からは茶花小学校6年生が参加、「映像制作チーム」が海洋教育の授業で進めてきた探究の内容をプレゼンテーションした。

発表したアイデアは「どこでも いつでも だれでも楽しめる映像PR作戦」。コロナ禍、どこにいても手軽に与論の魅力が伝わるようにしたいという思いでアイデアは設定された。アイデアを実現することによる効果、活動の流れ、注

意した点についての発表を聞くとともに、実際に制作した動画の再生も行われた。発表だけでなく、他校の発表に対して質問をしたり、感じたことを伝えたりするなど、オンラインでの活発な交流も行われた。

7. 第8回全国海洋教育サミット

参加日：令和3年1月22日

参加校：与論高等学校1年生1チーム（オンライン参加）

与論高等学校から1グループが参加。テーマ“「マイボトル」から、ごみ問題へ”を発表した。



与論で行われている活動

- ・海岸漂着物地域対策推進事業がある
- ・海謝美などのボランティア団体
- ・島内8か所に「拾い箱」設置
- ・地域でのクリーン大作戦

与論で行われている活動

海謝美によるごみ拾い

島内に設置されている拾い箱

見えてきた現状

海外からきているものが多い



漂着ごみを減らすことは難しい？



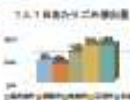
別の視点から考えるべきでは？

1人1日当たりのごみの排出量比較



与論のごみとその処理の現状

排出量が全国の平均値を上回る



一観光客によってのごみも...

資源ごみをリサイクルできないので島外へ

一圧縮などのコストが余分にかかる

意識改革へ

より具体的なACTIONが必要では？



マイボトル普及



①島オリジナルのマイボトルを作成し、販売する

②店舗や飲食店などで飲み物を補充するサービスを確立させる

得られる効果

- ・ペットボトルの使用が減り、ごみの量も減る
- ・観光客がお土産として買える
- ・島民や観光客が買ったら与論町の利益になる

「ペットボトル削減」

「マイボトル」

「観光」 ↔ 「地域経済」



しかし...様々な課題

①コストパフォーマンス

- ・水の価格が上昇している
- ・飲食店等の利益の確保

マイボトルを持ち歩く
メリットが薄れる

②提供場所の確保と周知

- ・提供場所や方法などがわからない

しかし...様々な課題

- ・環境面
作りすぎによる環境への問題

実現可能な具体策①

- ・マイボトル用のラベルやステッカー作り
→早期実現のための手法



8. 与論町教育研究会「海洋教育部会」

実施日：年間4回（詳細は「内容」参照）

参加者：茶花小学校 山下 孝一郎 校長（海洋教育部会顧問）
 与論小学校 西村 翼 教諭（海洋教育部会部員）
 茶花小学校 吉井 雅彦 教諭（海洋教育部会部長）
 那間小学校 齊藤 裕作 教諭（海洋教育部会部員）
 与論中学校 西田 広一 教諭（海洋教育部会部員）
 与論高校 高橋 智亮 教諭（海洋教育部会部員）
 与論町教委 兒玉 拓世 指導主事

目的：与論町内の海洋教育について縦横の連携を図りながら、町ぐるみのカリキュラム・マネジメントを推進する。

内容：〔第1回 令和2年6月12日〕

- ・ 与論町の海洋教育について
- ・ 情報交換「各学校における海洋教育」
- ・ 茶花小の「海洋教育科」について

- ・ 意見交換「海洋教育に関する今後の取組について」

〔第2回 令和2年9月18日〕

- ・ 「第1回ヨロン海洋教育フェア」の日程及び内容について
- ・ 今後の予算執行について
- ・ その他（「特例校申請について」「年度末の提出物について」等）

〔第3回 令和2年11月18日〕

- ・ 「第1回ヨロン海洋教育フェア」について
- ・ 令和3年度以降の計画について
- ・ 令和3年度教育課程編成に関して
- ・ その他（「全国海洋教育サミットについて」「年度末提出物について」等）

〔第4回 令和2年6月12日〕

- ・ 「第1回ヨロン海洋教育フェア」について
- ・ 令和3年度教育課程編成に関して
- ・ その他（「海洋教育子どもサミット2021inおおむた」「予算執行状況調べ」等）

9. 地域座談会

実施日：令和2年9月10, 14, 15, 18日

※新型コロナウイルス感染対策の為日程を分け少人数で実施

当初7月に計画していたが、島内でコロナ陽性者発生で9月に延期し実施

参加者：地域サポーター15名、海洋教育推進協議会事務局

※参加メンバーは、主に30代・40代に依頼、参加者の活躍分野は、

教育・観光・環境・文化・農業・漁業などの分野が偏らないように依頼

目的：我が町教育の「現状」と「未来の理想」について、参加者の率直な声を出し合う。

内容：

(1) 事務局より説明：与論町海洋教育について

海洋教育概要／活動実績と計画／町全体で取り組む必要性／座談会の必要性

(2) 全員参加ワークショップ：地域が考える与論町の教育の魅力とは？

1. チェックイン（チーム内）

緊張をほぐし、意見しやすい雰囲気作りのために、おひとり一言15秒程で、「今週 嬉しかった出来事について」共有しましょ。

2. 「今」を見よう！

GOOD&BAD をポストイットに書き出し、グループ内で共有
参考資料）与論町教育行政要覧 R2 版&H20 版

3. 「未来」を描こう！

- こうなったら良いな！をポストイットに書き出し、グループ内で共有
4. チェックアウト（チーム内）
- 今日の感想（各自）



地域サポーターの意見総括：

GOOD/BAD/未来に向けて必要なことの3点で意見を出した結果、GOODは抽象的な意見が多く伝統・自然環境・安全的環境、地域の教育への関わり、学校教育の指導力の高さ、生涯活動の充実度、子どもが持ち合わせている資質気質についてがあげられた。BADは具体的な改善点があげられた。特に危機感が強く、重要度が高い意見としては、子どもたちが夢を描くに必要な職種・仕事の情報や体験・経験が足りない点、心の悩みを抱いている子どもの多さ、大人のあり方についてがでた。未来に向けては、自己肯定感を養う教育、表現力・思考力・創造力を身につける教育、体験を増やすキャリア教育への要望が上がった。